（別紙4）　　平成　25　年度　　評価確定日　平成26年3月8日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601811
法人名	医療法人八十八会　ツジ胃腸科医院
事業所名	グループホーム　こすもす　（ユニット名　1F・2F　）
所在地	福岡県久留米市上津町字下千束1217番地1
自己評価作成日	平成26年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成26年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かで閑静な住宅地の中にあり、近くには公園や成田山もあります。くつろぎの広い居間・キッチン等、人に優しい住まいです。
”ゆっくり。楽しく。いっしょに。”を基本理念とし、地域との交流を図り行事等に参加しています。
法人は主体が病院で介護老人保健施設・ケアハウス・グループホーム等があり、夏祭り・餅つき会・お茶会等への行事に参加して入居者同士の交流も深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

医療法人を母体としており、近くには幹線道路が通っている閑静な住宅街の中にある。リビングからは成田山の観音像を望むことがで、朝夕に拝む利用者もいる。事業所の敷地内は広く、ゆったりした空間が広がり、畑もある。事業所周辺は近隣住民の散歩コースとなっているため交流も多く、自治会やイベントに声掛けしやすく、近所の方の葬儀に出席する事もあり、地域との交流や連携がとれている。開設当時作った理念を平成25年10月に、職員と話し合い自分たちの理念として作り直している。①ご本人の一言に耳を傾け想いを知り”ゆっくり、楽しく、いっしょに”暮らせるように支援します。②地域の皆様との交流の中絆を深め馴染みの環境で”ゆっくり、楽しく、いっしょに”暮らせるように支援します。また、利用者の理念もあり、・「自分にできる事は自分でします」・「安心は私の笑顔で作ります」・「安全は私の一歩この一歩」としている。職員と利用者は一緒に唱和し、利用者同士がお互いに思いやり、職員は事業所の理念を念頭に日々のケアに取り組んでおり、今後ますます期待できる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり。楽しく。いっしょに。」を基本理念として、職員全員で共有し、又、入居者にはくらしのめあてを掲げ、毎日利用者と共に唱和し実践に生かしている。	事業所の基本理念は、職員全員が理解して毎日の生活の中で実践している。利用者にも、「自立、安心、安全」を職員と一緒に唱和して、利用者も日々の生活に取り入れている。朝夕の申し送り時では職員間で意識強化に努めている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より、市政便りや校区便りを持参されて、行事の誘いもあり季節ごとに参加している。校区の消防団後援会にも参加している。	町内校区全体の総会に年1回参加している。自治会からの回覧板や市政だよりで行事の夏祭りや秋祭り、たけのこ堀、どんと焼き、JA祭りなどに利用者と共に参加し、地域との交流を図っている。消防団後援会にも参加し災害時の情報共有をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険のサービスに対しての相談を受け対応している。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域の自治会長・近隣住民・市役所・包括支援センターに参加していただき、状況報告、研修報告、外部評価の報告を行い助言や意見を参考にして、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に一度の会議には、自治会長、近隣住民、家族代表2名、利用者代表、行政職員、職員が参加している。行事報告や意見交換を行い、事業所前の道路が暗いという意見では、街路灯の設置を法人で行ったり、また、出入り口にカーブミラー設置の希望が有り手配をしたりしている。事業所のサービス向上に活かしている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市担当者に相談し、助言をいただいている。運営推進会議にも参加してもらい、協力関係を築き、サービス改善に努めている。	市担当者より生活保護受給者の受け入れ相談がある。法律の改正後に詳細を聞くために相談したり、事故報告時に防止策や、他事業所の取り組みはどのようにしているのか等、積極的に相談し協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加し、参加できない職員にはミーティングや申し送り、回覧で全職員が理解をし、その意味や意識を持つようにしている。	法人内研修が年１回ある。参加できなかった職員には、申し送り時に資料を回覧して学習してもらっている。また、月１回のミーティングや休憩時間等にも話し合いを行い理解している。職員は、強い言葉・命令口調・停止する言葉等を禁し、職員同士も注意し合えるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、ミーティングや回覧で報告し、意識付けや知識向上で指導を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH部会主催の研修に参加後、勉強会を行い、制度について理解を深めている。相談を受けることもあり、支援している。	同市のグループホーム部会主催でテーマを決めて月1回の研修に職員が参加したり、社会福祉協議会の権利擁護研修に管理者が参加したりして、他の職員には伝達研修を行い、職員は制度の理解は出来ている。玄関にはパンフレットや資料を置いている。現在、制度を利用している利用者はいないが、家族からの相談を受けている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームを見学していただき、契約時には十分な説明を行い、ご本人、ご家族の不安や疑問について説明し納得していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や希望、思いを申し送り時に伝え、その内容を皆で理解し考えている。2ヶ月に1回の便りで日頃の様子を報告している。	玄関に意見箱を設置しているが、入っている事はない。家族面会時には、意見や要望を聞くようにしている。常に話し合いを行い、事例として、車椅子利用者にも介助により歩行ができれば、出来るだけ歩行することや、利用料金の支払いを日祭日であっても受付るように改善したこと等が有り、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、意見や要望を出してもらっている。法人内の会議時に提案し、業務改善・向上に努め意見を反映できるようにしている。	管理者と職員は、毎日の活動の中で良い関係性を築いている。職員同士で話し合い、ミーティング時には要望や意見が自由に発信できており、「食事時のスプーンの大きさを利用者が食べやすいスプーンへの変更」「使い捨ての排泄専用のエプロンを新調する」等、管理者はいつでも提案を聞く機会を設け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を聞き、働きやすい環境に努めている。採用後に初任者研修を受ける人は、優遇制度があり、各自が向上心を持っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、性別や年齢を理由に排除していない。職員は得意分野を活かして勤務している。又、社会参加や突発的な休みは調整している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別に関係なく20歳代から60歳代の男性、女性が勤務している。職員は得意な歌や懐メロ、料理を活かしている。社会参加や突発的な休み、資格取得の自己実現等は保障されるように配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重する意識を持ち”明るく思いやりのある心”で接している。ミーティング、申し送り時等、日頃より話し合いをし、入居者の思いを傾聴し共感、受容に努めている。	法人内で年に1回ビデオ研修を行っている。接遇研修に人権教育も含まれており、職員に対して人権や尊厳についての教育を行っている。毎日の接遇の中でも継続的な教育や啓発に取り組み、日常的に職員の意識化へ取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加し、ミーティング時に報告している。新採用職員は、定期的に自己評価をしてもらい、ケアの実際と力量の把握に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームに出かけ、利用者同士のふれ合いの場を設けている。部会の研修に参加し、サービスの質を向上させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、ご本人、ご家族と会って情報収集に努めニーズの把握を行っている。入居前に職員全員が統一したケアができるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、キーパーソンやご家族から、不安や要望について情報収集を行い、ニーズの把握に努め、ケアプランに反映できるように関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の現在の様子、思い等必要としている支援を提供している。必要に応じて、本人に合ったサービスが提供できるように、他機関・地域連携を図っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を共にし、喜びや楽しみを一緒に共感できるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には、その都度生活の様子を報告し、ご家族と職員で共に支えられるようにケアの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が希望する場所に車や歩いて出かけ、支援に努めている。知人や友人の面会もあり、関係が継続できるように努めている。	入居前の馴染みの関係が途切れない様に取り組んでいる。利用者が住んでいた場所へのドライブや夏祭りに参加している。時には家族と一緒に馴染みの美容室や利用者が昔、お琴を教えていた生徒の稽古場に出かけたり発表会に出かける事もあり、関係が途切れない様支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりの趣味、好きなことを把握しており、出来る環境作りをしている。「できること、やりたいこと」を一緒に行い孤立を作らないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の了解を得て、施設や病院に訪問している。又、電話で様子を伺い、現状を把握しアドバイスを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、入居者一人ひとりの思いを汲み取っている。職員間でも情報を共有し、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の状態観察と家族の意見を取り入れ、ケアプランに活かしている。	利用者一人ひとりの動作・仕草や日々の会話の中から本人の意向や希望を感じ取り把握している。少しでも変化を感じた際は、その都度職員全員で話し合い検討したりして思いをくみ取っている。家族が来られた時は積極的に話を伺い、利用者本人の全体像把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から情報収集を行い、これまでの生活習慣に近い環境で安心して暮らして頂けるよう努めている。居室には、これまで大切にしてきた家具や品物を持参していただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にカンファレンスを行い、モニタリングを行っている。 毎日の経過記録により、入居者の現状の把握に努め、ケアプランに活かしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聞いて、職員で検討し状況に合った介護計画を作成している。 3ヶ月ごとにモニタリングを行い、状況変化のある時は随時見直しを行っている。	家族へ利用者の現状を報告して意見等を聞き取ったり、受診時にかかりつけ医の意見を聞いたりしている。計画作成担当者・受け持ち担当が中心となり、職員全員で利用者にとってよりよい生活となるように計画介護書を作成している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の現状把握をするためにSOAPにて記録を行っている。ケアの実践、気づきや変化は口答や記録にて情報の共有を行い、ケアプランに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望があれば医師、歯科医等の受診・往診を行える体制を取り組んでいる。個々にあった状況に応じてサービスを取り入れ個別性のある支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加しており、地域の行事やボランティア活動（クリーンパートナー）などを行う中で、本人が力を発揮できるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族が希望するかかりつけ医を聞いている。受診の時は、職員も同行し必要な方は訪問看護や歯科医、心療内科医の往診を依頼している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。他に母体である医療法人からの往診も毎月行われている。訪問歯科・看護・心療内科等と密に関係があり、本人・家族の希望に応じて対応している。皮膚科眼科なども家族、職員が協力し、受診している。職員同行時の家族への報告は、その都度管理者が行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で医療連携体制が整っており、担当の看護師に毎日の健康状態を報告し、急変時の対応が敏速に行くように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者との連絡を随時行い、入居者の状態把握をしている。また、お見舞いに行き入居者とのコミニケーションの中で安心していただけるような支援を心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明を行い、本人や家族に意向を確認している。身体状況が低下した場合は、本人、家族、主治医と相談しながら支援に取り組んでいる。	利用者本人や家族の意向を踏まえて、事業所が出来る最大のケアについて説明を行っている。利用者の身体状況に応じて、家族に意向の再確認を行っている。重度化・緊急時の際に、即、対応出来る様に母体である医療法人・協力医療機関・職員が24時間体制を整えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	付1回のミーティング時に、急変や事故発生時に備えての勉強会や訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した避難訓練を行い消防署にも立ち会いを依頼し、指導してもらっている。地域の自治会にも協力をお願いし、近隣住民の人も参加されている。日頃より避難経路、避難場所についても指導し周知している。	自衛消防組織・マニュアルを作成し、年に2回利用者や近隣住民と共に避難訓練を行っている。職員は避難経路、避難場所など周知している。事業所内にはスプリンクラーや消火器・地域の防災ラジオも設置されている。非常時に備え水、缶詰、オムツ等を備蓄している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、プライドに配慮した言葉かけを行っている。職員は不適切な言葉かけや、対応をしていないか注意し合い、その日の申し送り時に話し合いをしている。又、接遇に関しての勉強会も行っている。	利用者一人ひとりを尊重して目上の方に接するよう、言葉使いに気を付けている。利用者本人の気持ちを大切に考え、自己決定を妨げない言葉かけをするよう、好ましくない言葉かけを示す掲示を行い、対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの「できる事・したい事」にそったケアプランを作成し、本人のニーズを優先したケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の身体的、精神的な状態把握に努め、本人に合った生活が送れるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む理髪店等、希望がある時は家族や職員と共に付き添っている。 着替えは、できるだけ本人に選んでもらっている。化粧品も希望により購入している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや後片付け等、役割を持って頂き、出来る事をして頂いている。食事は同じテーブルで音楽や会話を楽しみながら摂っている。ホームの畑でとれた野菜を収穫したり、下ごしらえを一緒にしている。	敷地内にある畑では季節に応じて、玉ねぎ・さつまいも・じゃがいも・つくし・そら豆・グリンピースを利用者と職員によって栽培している。利用者と一緒に収穫や下ごしらえを行い、食事の支度を行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来る様にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の指導により個人に合わせた食事提供を行っている。制限のある方には献立を変更している。毎日バイタルチェック表に食事量を記入し、水分量も個人表に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を居室で行い、口腔内の清潔保持に努めている。個人に合わせたスポンジ・ガーゼを使用し、週一回の歯科往診や歯科衛生士による口腔ケア研修を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の尿意・便意に合わせる事はもとより感覚が薄れている方に関しては、排泄チェック表を使い、本人に合った排泄パターンを把握し誘導を行っている。	利用者一人ひとりの自尊心に配慮し、所作や表情をさりげなく伺い、トイレ誘導を行っている。尿意がはっきりしない利用者には、排泄チェック表を使用しパターンにあわせて誘導することにより、トイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適時、適宜の水分補給、腹部マッサージを行っている。繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望や、健康状態に合わせ入浴を行っている。体調不良等で入浴できない場合でも、清拭・着替えを行い清潔保持に努めている。又、ゆず湯や、菖蒲湯など季節感を味わってもらっている。	入浴の準備は毎日しており、その都度個々の体調に合わせ、少なくても週に3回の入浴支援を行っている。仲の良い利用者同士が一緒に入りたいという希望がある場合も支援している。拒否のある方は時間をずらして声掛けしたり、利用者の羞恥心を汲み取り、必要に応じて個々での支援を行うなどの工夫もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や健康状態の把握に努め、倦怠感があれば声かけを行い、休息ができるようにしている。寝具の調節や室温を考慮し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、いつでも職員が見られるようにしている。服薬時には、本人に手渡し服用の確認を行っている。体調に変化等があれば速やかに看護師、医師へ報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、畑仕事など一人ひとりに合った出来る事を楽しみにして頂けるように支援している。散歩やドライブの機会を設け、気分転換等の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見やドライブに出かけると共に、近所への散歩や買い物にでかけている。途中、軽食をする等、個別に支援している。又、ご家族にも協力をお願いし外出の機会を作ってもらっている。	利用者一人ひとりの希望にあわせて、数名で近所の菓子店でお茶を飲んだり、道の駅やスーパーへ行ったりしている。近隣の文化センターや公園やお寺へ季節ごとの花見を楽しみに外出している。家族の方とも協力し、自宅や御稽古場・法事やお墓参りなど積極的に外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、お金を持って頂いている方もいる。買い物の際も自分で支払が出来るように支援している。自己管理が難しい方は、ホームでお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に電話をしてもらっている。又、手紙・絵手紙・年賀状を出したりと支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、利用者と制作した作品や写真を飾っている。キッチンからは調理の音、匂いがあり生活感が漂い、居心地良く暮らしていただいている。	共有空間は広く、足踏みミシンや和風人形、畳の間など高齢者にとって懐かしく感じられるものを置いている。リビングには、利用者が作成した季節の作品や行事写真を飾っており、居心地の良い空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、畳敷きの場、食堂が一体化しており、一人ひとり思い思いに過ごせるように支援している。又、入居者同士のくつろぎ、語らいの場になっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前使用されていた家具や仏具等を持ち込まれ、これまでの生活の延長で安心して暮らせる工夫をしている。	居室は一人ひとりの生活や好みに合わせ畳の部屋や床の部屋がある。寝具やタンス、仏壇等使い慣れた物、趣味の編み物・お琴・書道・人形などの思い出の品々や室内用運動器具等も持ち込んでいる。利用者が安心できるよう家族写真や作品等も飾っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の出来ることや、一人ひとりのADL状態を把握し、環境整備を行い自立した生活が送れるように工夫している。		